全構協青年部会東北ブロック

鋼材入手難など情報交換

全国鉄構工業協会青年部会東北ブロック協議会（会長・渡邊進メタルプロダクツ社長）は6日、仙台市内で今年度第3回役員会を開催し、各県の近況報告を基に情報交換を行った。

冒頭、渡邊会長は「コロナ禍が落ちつき、業界に動きが出てきた。鋼材価格の高騰をはじめ多様な課題が山積している。会としてできることは着実に取り組みたい。活発な意見交換をお願いしたい」と挨拶した。

このあと各県代表による報告に移り、鋼材の入手難に関しては「高力ボルトの入手遅れが心配。来年物件で建て方が遅れる懸念がある」「今後の引き合い物件に関しては急激な鋼材価格の上昇に加え、入手難の鋼材も多々あり、納期対応が難しい状況」「ここにきてコロナ対応の補助金を使った設備投資で中小物件が散見されるが、工期が決まっている一方、材料納期が間に合わない」「入手難の鋼材が多い。この時期にせっかくいただいた貴重な引き合いを大切にしたい。クライアントとの関係を密にする活動を強化している」などの発言が聞かれた。

また先々の仕事量や利益などに関しては「引き合い数が少なく山積みに苦慮している」「ファブリケーターによって二極分化している」「鋼材値上がり分が見積もりに反映されず、利益が取れていない」「Hグレードとそれ以下のグレードで山積みに差が見られる。物件規模も100トン～数百トン規模の案件が少ない傾向」との意見も出た。

そのほか、稼働率はHグレードが100％強で残業が生じるなど繁忙感を増しており、呼応して協業関係にあるMグレードの稼働率が上がっていると報告。山積みは各県とも総じてHグレードが高位を保ち、中には内定ベースで1年超との一方で「R、Jグレードは今の仕事が終われば空いてしまう」との言及もあった。